



会員名簿ができました

遅くなりましたが、会員名簿を同封いたしました。入会届が次々と届けられていますのでまだまだ増えると思いますが、とりあえず12月1日現在の会員分です。会員同士の情報交換等にご利用ください。また、誤りがございましたら事務局までご連絡ください。

入会の意思表示をしながら登録用紙を送っていただけなかった方がいらっしゃいましたので(手続きをもっと簡略化するとよかったと反省しております)、名簿整理の都合上催促等をしましたのでご不快になられた方がいらしたらご容赦ください。

事務局に電子メールがきました。

(miyazaki@jb3.so-net.or.jpで

す)

会員の皆様から、いろいろと資料が送られてきています。また問い合わせやそれぞれの地域でのイベント情報の連絡も入ります。そこで、事務局にパソコンを入れてメールでの対応ができるようにもしました(インターネットは、勉強中ですのでしばらくお待ちください。また経費は、事務局員の好意で「個人持ち」とさせていただくことができましたので、会費からの支出は当分の間ありません)。皆様からの情報をどしどしお寄せください。また、お互いに情報交換ができるように、会員登録用紙にメールアドレスの記入をお願いしましたが、記入欄が狭く読みにくいものが多かったので、本日同封の会員名簿には記載しませんでした。メールアドレスをお持ちの方は、あらためてFAXかメールでお送りください。

会員より

大切な論文をありがとうございました。ワクワクしながら読みました。書かれている以上に大変だろうなと痛感しました。そして、自分の現在の環境の中でどれだけ秋津小学校のようなことが可能だろうかと考えさせられました。私が育つ頃は、どこでも秋津小学校のようなコミュニケーションが少なからずあった様に思います。近所の付き合いにしても、お年寄りがそばにいるということにしても・・・

今、自分が親になってみて、そして年をとっていくときのことを考えると、自分のできることで皆に喜ばれたり頼りにされたりすることは、どんなに励みになるだろうと思います。子どもたちにとっても、親以外の大人に接して自然に大切なことを教えてもらったり、優しさ・思いやりが育っていきますよね。それを現実にしてしまった秋津小はすごいです。自分の子どもに対する接し方・子どもの友達・親・近所・・・いろいろな人と関わりがあって、その一つひとつを子どもは見ているんですよね。そう思うと子どもの友達に対しても、真剣に受けとめてあげなくてはなんて思ったりして。

秋津小学校の活動を知って、今はちょっと見方がかわってきました。とりあえず、私のすぐ身近な付き合いから初めてみようかなと思っています。お菓子もできるだけ手作りしようと思い、試してみたら子どもたちが喜んでくれるので、今はヒマを見つけてはチャレンジしています。(神奈川・PTA会員)

事務局保管資料 NO.2

事務局には、会員およびその他の方からの学校と地域の融合に関する実践事例集等の資料がいくつか届けられております。なお発行先の了解があるものは、簡単な内容紹介と連絡先をつけましたので、資料が必要な方はご自身で連絡をとってください。

また、会員の皆様で、お手持ちの資料や発行先の情報をお持ちの方はご一報ください。その際、「掲載の可否、資料請求の可否」についても添えていただきますと有り難いです。

生涯学習宣言市町村事例集 (国立教育会館社会教育研修所発行 全440ページ)

H8.7.1現在の北海道から沖縄までの107市町村の生涯学習事例が紹介されている。

生涯学習まちづくり出前講座資料集 (同上 全502ページ) H9年度版

北海道から鹿児島までの48市町村の生涯学習事例と建設省中部地方建設局の地域コミュニケーション大綱および東京成徳大学の移動公開講座が紹介されている。

「生涯学習推進に関する研究会」報告書 (大阪市隣接都市協議会発行 全109ページ)

編集後記

第1号に引き続いて、第2号をお届けします。今回発行の趣旨は、第1号で予定していた会員名簿の送付にありました。会員相互が連携し合うには互いの情報交換

は不可欠であり、そのための名簿は必需品だと感じているからです。さらに事務局に寄せられた多くの実践資料は、熱のこもったものばかりであり、是非とも皆様に早くに紹介したいと思ったからです。内容まで詳しくは載せられませんが、ご連絡を取り合って情報交換していただくと幸いです。

会報に載せてほしい記事およびイベント等で会員に予告して、参加を呼びかけたいことがありましたら、事務局までお寄せください。

次号の予告 (3月末頃の発行予定)

第3号では、次の内容を予定しています。

学校開放の問題点について
会長所感(なぜ、融合研の設立を思

立ったか)
今後のミニフォーラム予定
全体会について
イベント案内
その他(会員からの情報)

融合研では、会員を募集しています。学校と地域の融合教育に関心のある方、まちづくりに関心のある方なら、どな

でも会員になれます。皆様のお近くで、そのような方がいらっしゃいましたら

誘ってください。

設立1周年記念フォーラム(案)

日時 1998年8月1日(土) 9:00~21:00

途中参加、途中退席とも自由です。

場所 習志野市サンロード大会議室ほか

内容

- ・講演「21世紀の生涯学習と学社融合」(仮題)
講師、文部省生涯学習局生涯学習振興課長 寺脇研氏
- ・パネルディスカッション「学社融合への具体的方策」
- ・分科会
学校と地域との融合による町づくり(提言者、習志野市秋津コミュニティ)
高齢化社会と学校・社会の融合(提言者、仙台市シニアネット)
学校・社会の融合と行政の役割(提言者、栃木県鹿沼市教育委員会)
過疎化地域における学校・社会の融合(提言者、高知県高岡郡窪川町)
世代間をつなぐコミュニティ活動(提言者、千葉県市川市サンシャインクラブ)
施設見学(習志野市秋津コミュニティルームおよび、ラムサール条約登録湿地「谷津干潟」)

講師 「寺脇研」氏について

1952年生まれ。文部官僚でありながら「マンガ論」（「本の窓」1998年3月号、小学館）を書いたり、「中学校の業者テスト廃止」を手がけたりした人です。また、映画にも造詣が深く、多彩な方です。「世界」1998年2月号（岩波書店）では、「学校をどう変えて行くか」をテーマに宮台真司氏（都立大学助教授）と対談。広島県教育長を経験。著書多数。

・講演だけでなく、パネルディスカッションのコーディネーターとしてもお願いしたいと考えています。

会費 無料

資料代 2,000円

会員会費（1998年度分）を、未納の会員は4,000円になります。

宿泊を希望される方は、事務局に7月20日までにご連絡されるか、ご自分で予約をしてください。

現在「日本学校・家庭・地域教育研究会」との共催の線で準備を進めています。先方の役員会での検討結果を待っている段階です。

文部省の意向を多くの方に、じっくり伝えたい。 からとのこと。

連絡先は、文部省生涯学習局生涯学習振興課総務係「西村さん」へ。

会場の仮押さえ分

1、大会議室（100人収容） 9：00～17：00

全体会、パネル、分科会に使用

2、特別会議室（20人収容） 9：00～21：00

講師控室、役員会、分科会に使用可能

3、和室（舞台付き12畳） 13：00～17：00

役員会、分科会に使用可能

借用にあたっては、無料。契約管財課が所管であるが、教育委員会学務課を通すこと。

今後の仕事

1 市教委に連絡、参加を募ってもらう。（4.6にまず連絡済）

2 会員に連絡（会報で）

3 当日の内容をつめる

・時程 ・テーマ（講演、パネル、分科会） ・登壇者（パネル、分科会提案）

4 当日までのタイムテーブル作成

5 当日の各担当者（司会、記録、受け付け、接待等）の決定

6 その他（謝礼等、雑誌への案内掲載、

会 長 所 感（NO.2）

1．何故、融合研の設立を思い立ったか。

2．何故、読売教育賞に応募しようと思ったか。

3．自分の教育者人生とは何であったか。

素直な気持ちで。

精神的に障害のある方をどう遇するか

校長は、スポークスマンになる。地域に対して、職員に対して。

熱心な活動協力の方と児童の意向・教育的な判断。子どもを大人のしがらみの犠牲にしない。

等々。ここでは、発会の時の設立趣意書や総会宣言等から、数回に分けてミニフォーラムのテーマとして分けて検討できるものを計画的に予定する。そのた、連合PTAでの市同等から生まれてきた新たな課題も計画に入れる。

学校経営のスタイルは、「人は石垣、人は城。」

資料案内

・主に国社研でのものを入れる

・岸田さんの論文

秋津小学校への参観（視察）や、会員の執筆原稿および交流等

会長所感に続いて

講演原稿より

連載「融合キーワード 辞典」NO. 1